

# 植物 [中]

夢 鷗 生

(ラスキン氏近世畫家抄譯)

○地球上に起つた最強き風力でも、厚さ一時ある木の枝の生え  
ぎはの角度を變ずる事は出来ない、風如何に強くとも枝は曲が  
つたなりに、角度も變更せず、全く自然の儘に曲がるのであ  
る。併し部分々々の曲りの率は多少變はる、則ち垂直であつた  
部が曲がり、曲がつて居た處が一層ひどく曲がる事はある。け  
れど、幹と枝、枝と小枝との如き二部分の接着してゐる點の角  
度は、依然舊の如してある。若し、強いて反對の向へ壓へ付け  
らるゝ如き事あれば、その角度が變はる前に裂けてしまふ。  
○吾等でも、若い枝ならば其附根の處の角度を變らせることが  
出来るが、容易ではない。大きな枝では、とてもいかぬ。強い  
風の吹く日に樹木を見ると、凡ての枝は曲がつて見えるが、併  
しよく觀察すると、梢の末端か、若い枝の外は、自然の形を失  
はぬのを認めることが出来る。

○樹木に就いて熟練なる眼は植物學の智識よりも價值がある。  
勿論畫家にとりて。

○幹の成長するに當つて、上部の方で枝を分出する具合は、熱  
心に觀察するによつて知らるゝものであつて、學問上で分かる  
ものではない。

○樹木の幹の雄々しき有様を、精密に描くは、人體研究をした

人て無いと出来ぬ業である。樹の性の優和な表現は、それ等の  
人でも失敗することがある。されど木の曲線と人體の曲線とは  
同一ではない。併し樹の外形の居る特種の線につきては、機根強  
く森林の研究をすれば習得することが出来る。

○古人の描いた樹木には往々誤謬があるが、其中に、樹木の成  
長、年齢を表はす木皮の性質につきての缺點が多い。

○樹皮は決して生命なき外部的のものでない、木の生活、及年  
齡を表示すべきものである、されば樹枝が岐かれる處の下部は  
鬚が寄るし、又幹を圍りて美しい線が出来る。又木質の成長の  
方向と緩急に應じて縦に裂目が出来たり。脱落したりする。

○木の葉の著しき性質は、枝に附いて居る間は何時も多様な形  
をして居る事である。或る葉は側面から見えて單に長い線とほ  
か見えぬ、前面から見た葉は短かく見える、又は葉と葉と重な  
り合つたりする、葉一片は同じ構造であるが、群がると千差萬  
別の觀を呈する。其の上、葉の陰影が他の葉の上に落ちるから、  
葉群が尙一層混雜して見える。眼で見ても葉群の周邊の方にあ  
る葉片が判然とわかるだけで、他は美しいがこみ入つたものと  
ほか見えぬ。

## 日本水彩畫會新會友

愛知縣碧海郡明治村榎前

齋 藤 勘 吾

小樽區稻穂町畑五十六

山 内 彌 一 郎

長野縣上伊那郡赤穂小學校内

野 本 文 雄